

DX化支援の ima と茨城県行方市が協働し、

シラウオの鮮度を保ち出荷するブランドセンターを立ち上げ

～「霞ヶ浦シラウオ×AI」プロジェクトで、持続可能な水産業のあり方を模索する～

この度、社会のDX化を支援する株式会社 ima（所在地：東京都中央区日本橋 代表取締役：三浦 亜美）とシラウオの漁獲量全国2位を誇る茨城県で霞ヶ浦沿岸に位置する行方市（市長：鈴木 周也）は、2021年から取り組んでいる、「霞ヶ浦シラウオ×AI」プロジェクトにおいて、これまでの知見を集約して新鮮なシラウオを広く安定的に供給できる体制を確立すべく、AIシラウオブランドセンター（行方市高須崎公園内）を立ち上げます。

ブランドセンターの立ち上げにより、本プロジェクトで扱うシラウオの水揚げ以降の処理（選別、AI判定、包装、出荷等）を一貫して行うことが可能になりました。また、ブランドセンターにて統一的にシラウオを取り扱うことにより、データの収集やAI装置の継続的な改善、判定精度の向上にも取り組むことができます。今後は、漁業者の負担軽減と品質の統一・向上を推進し、適正な水産資源保護、商品の高付加価値化の両立により、持続的な漁業を目指してまいります。

AI装置は、今後も株式会社 KICONIA WORKS（所在地：東京都渋谷区渋谷 代表取締役：書上 拓郎）と共同して改善を繰り返すとともに、より高品質な商品を提供するために鮮度保持の技術開発、近畿大学との共同研究も推進していきます。

今後のシラウオの販売は霞ヶ浦漁業協同組合（所在地：茨城県行方市玉造甲 1560 代表理事組合長：鈴木 幸雄）が担い、将来的に霞ヶ浦全域での展開を目指します。

ブランドセンターは、漁解禁時期およびシラウオ漁獲量に合わせ8月下旬を目途に本格稼働を開始し、朝獲れのシラウオを当日中に新鮮なまま関東地方全域にお届けします。

●「霞ヶ浦シラウオ×AI」プロジェクトの発足背景

茨城県南東部に位置する霞ヶ浦は日本で2番目に大きい湖ですが、近年、湖魚（かわざかな）の国内市場の減少や価格低迷の常態化、漁業者の高齢化や担い手不足による漁業者の減少などを背景に、水産資源の有効利用を持続的に進めていくことが難しい現状にあります。国内の漁獲量をみても、年々減少しており、水産業を持続可能にするため、今後は適切な資源管理を進めていく必要が出てきております。行方市周辺エリアには魚市場がなく販路が限定されて価格の変動が少ないため、漁獲量頼みの経

営をする漁業者がほとんどですが、シラウオを鮮度良く出荷することにこだわり、長年取り組んできた漁業者も中には存在します。そうした漁業者の取り組みを实らせ、漁獲されたシラウオの高付加価値化を図るため、2021年度より、シラウオの鮮度をAIにより客観的に評価する「霞ヶ浦シラウオ×AI」プロジェクトは始まりました。

【会社/自治体概要】

○株式会社 ima

設 立： 2013年8月14日

所在地： 東京都中央区日本橋兜町9-5

代 表： 代表取締役三浦 亜美

U R L： <https://i-ma.jp/>

○茨城県行方市

所在地： 茨城県行方市麻生1561-9

代 表： 市長 鈴木 周也

U R L： <https://www.city.namegata.ibaraki.jp/>

○株式会社 KICONIA WORKS

設 立： 2018年5月18日

所在地： 東京都渋谷区渋谷3丁目10番1号 渋谷MJビル3階

代 表： 代表取締役 書上 拓郎

U R L： <https://www.kiconiaworks.com/>

○霞ヶ浦漁業協同組合

所在地： 茨城県行方市玉造甲1560

代 表： 代表理事組合長 鈴木 幸雄

U R L： <http://jf-kasumigaura.jp/>

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社 ima

担当：三浦

TEL：03-5846-8737

メールアドレス：info@i-ma.jp